

第3章 河川の現状と課題

第1節 河川の概要

計画対象河川は、大須賀川、小野川、黒部川、与田浦川、高田川、清水川の6河川とその支川の10河川であり、流域面積は合計約283km²、総延長は約80.2kmとなっている。いずれの河川も勾配が緩やかで、市街地を流れる区間以外は硬質な護岸の少ない河川であり、田園地帯をゆったりとながれている。

小野川と黒部川は香取市、桁沼川は東庄町、清水川は銚子市の中心部を流れている。

与田浦川は利根川の左岸側に位置し、横利根川から分派し常陸利根川に合流する流域面積約28km²、延長約13.6kmの河川である。与田浦川の流域はもともと利根川と霞ヶ浦の洪水氾濫原であった広大な湿地であり、与田浦川はこれを干拓したときに生じた河川である。

大須賀川は、両総用水事業に伴い改修された河川であり、旧川は派川大須賀川としてその姿を残している。流域面積は約83km²、延長は約8.1kmであり、下流は背割堤により両総用水と房総道水路の取水路として兼用されている。また、支川の上八間川、下八間川も土地改良事業により整備された河川である。

小野川は香西川を支川として持ち、流域面積約36km²、延長約5.8kmの河川である。上流部は香西川とともに田園地帯を流下し、下流部では沿川に伊能忠敬旧宅を中心とした歴史を感じる町並みのある香取市の旧佐原市街地を流れている。

黒部川は、圏域内で最も流域面積が大きな河川であり、流域面積は約103km²、延長は約18.1km、桁沼川、玉川、小堀川、清水川、中川の5つの支川がある。

黒部川下流部は、貯水池として整備されており広い水面を有して緩やかな流れとなっている。圏域の重要な水源として利用されている。

高田川は三宅川を支川として持ち、流域面積約27km²、延長約2.5kmの小規模な河川であるが、上流の銚子市が管理する準用河川区間において水道水の開発を目的に白石ダムが建設されている。

銚子市の中心市街地を流れる清水川は、流域面積約7km²、延長約1.5kmと、圏域の一次支川の中で最も流域面積の小さい河川である。

第2節 治水に関する現状と課題

本圏域は利根川沿いの低地であり、多くの河川は、農地の開拓とともに河道が形成され、香取市の旧佐原市街や旧小見川市街などでは舟運のため河岸が石積みで築かれている。治水対策としては、昭和33年、昭和46年等の出水を契機に、河道改修が進められている。また、地形的に内水被害を受けやすい特性を有している。

与田浦川は、霞ヶ浦の総合開発や土地改良事業等により改修されており、外浪逆浦や横利根川との間には、洪水排水及び逆流防止のための水門及び排水機場が設置されている。これにより、近年は家屋の被害等を伴う水害はほとんど発生していない。

大須賀川、派川大須賀川、上八間川、下八間川は昭和40年に完成した両総用水事業及び土地改良事業等により河道が整備されており、近年、洪水による家屋への浸水被害はほとんど生じていないが、大須賀川の利根川合流点から仲橋の間では、農地の湛水被害防止のため土地改良事業により現在二次改修が行われている。

小野川については、川沿いの伝統的建造物保存のため、香取市の旧佐原市街部の河道拡幅を避けて、市街地上流から流下する洪水を直接利根川に導く放水路を建設した。

また、内水対策として、小野川水門と小野川排水機場が整備されている。今後は、香取市公共下水道（雨水計画）と整合した市街地内の河道の治水安全度の向上が必要である。

黒部川は、総合開発事業や平成11年の出水を契機とした災害復旧助成事業等により整備が進められているが、市街地を浸水被害から守るために、日の橋付近中流部及び平成橋より下流の整備が必要である。

小堀川、桁沼川については、これまでの整備によって、近年、家屋への浸水被害はほとんど生じていない。また、内水対策として、一之分目揚排水機場、黒部川排水機場、豊排水機場が設置されている。玉川下流域の家屋密集地区においては浸水被害が発生しており、対策が求められている。

高田川、三宅川は昭和54年の集中豪雨を受けて下流部から市街地部にかけての河道改修が完了しており、近年では顕著な浸水被害は発生していない。

銚子市の中心部を流れる清水川（銚子市）は、一部区間の改修が行われているが全体的に川幅がせまく、平成4年、平成8年等に浸水被害が発生している。現況河道は既成市街地を貫流しており、JR総武本線の横断や銚子大橋の上空占有などがあり、改修が難しい状況である。

本圏域内の各河川は、これまでの河川の整備に伴って、浸水被害は減少傾向にあるものの、近年でも被害は発生しており、今後も河川改修により被害の軽減を図る必要がある。

第3節 河川の利用に関する現状と課題

(1) 流水の利用

圏域内の河川の多くでは、流水が農業用水として利用されている。

小野川及び香西川では農業用水最大 $1.255\text{m}^3/\text{s}$ 、与田浦川では利根川から最大 $6.264\text{m}^3/\text{s}$ が注水され農業用水として利用されているほか、自流を水源として農業用水最大 $0.182\text{m}^3/\text{s}$ が取水されている。

黒部川については、水道用水として河川総合開発事業により $0.63\text{m}^3/\text{s}$ の水資源開発が行われ、既得の水道用水源と合わせ $1.386\text{m}^3/\text{s}$ が取水されている。農業用水については、利根川からの注水により東総用水及び大利根用水ほか既得用水の水源として最大 $14.742\text{m}^3/\text{s}$ が取水されている。また、黒部川自流を水源とした既得農業用水として支川と合わせ最大 $3.548\text{m}^3/\text{s}$ が取水されている。

高田川及び三宅川では、農業用水最大 $0.431\text{m}^3/\text{s}$ が取水されている他、上流の銚子市管理準用河川の区間において、ダムにより、 $0.092\text{m}^3/\text{s}$ の水資源開発が行われており、銚子市の水道に利用されている。

大須賀川及び支川の派川大須賀川、下八間川、上八間川では農業用水最大 $2.647\text{m}^3/\text{s}$ が取水されている他、大須賀川下流部が両総用水及び房総導水路の導水路として兼用されている。

本圏域への水供給は、圏域内の河川のほか、利根川への依存が大きく、渇水時には利根川の流況による影響が大きい。塩害に関しては、利根川河口堰の完成以降顕著な被害は発生していない。

圏域内の各河川では、黒部川及び小野川において水位観測が行われているのみであり、年間を通じての流量観測は行われていない。また、利根川の背水の影響や農業用水の還元等の水収支が複雑であることなどにより、河川の流況の把握が難しく、現時点では流水の正常な機能を維持するために必要な流量は設定していない。

(2) 河川利用

圏域内の河川利用状況としては、与田浦川とその支川を舟で巡る「佐原・加藤洲十二橋めぐり」が有名であり、アヤマの季節には県内外から多くの観光客が訪れている。

小野川下流部周辺の重要伝統的建造物群保存地区には、伊能忠敬旧宅や記念館、残したい日本の音百選に選ばれた樋橋(じゃーじゃー橋)があり、小野川沿いの道路が散策路として利用されている。また、佐原の大祭の際には小野川で観光客を輸送するためのシャトル船が運航され、現在、観光船としてこのシャトル船の常時運航を目的とする NPO 法人が設立されている。

黒部川下流は、水上スキー、カヌー、ヨット、ボートなど、さまざまな水上スポーツに利用されており、貯水池において香取市の市民レガッタを始めとするスポーツイベントが開催されている。また、年間を通じて釣りが楽しまれており、フィッシング大会等のイベントも行われている。東庄町では、黒部川堤防に遊歩道の整備、オオム

ラサキ（ツツジ科）やサクラの植栽など「ふるさとの川づくり」が行われており、小見川町には黒部川のＪＲ成田線～昭和橋までの約 650m の区間に桜並木があり、花見や散策路などに利用されている。

与田浦川においては張網などの漁業が行われている他、圏域内の各河川で魚釣りや、河川管理用通路や沿川の道路が散策路などとして利用されている。

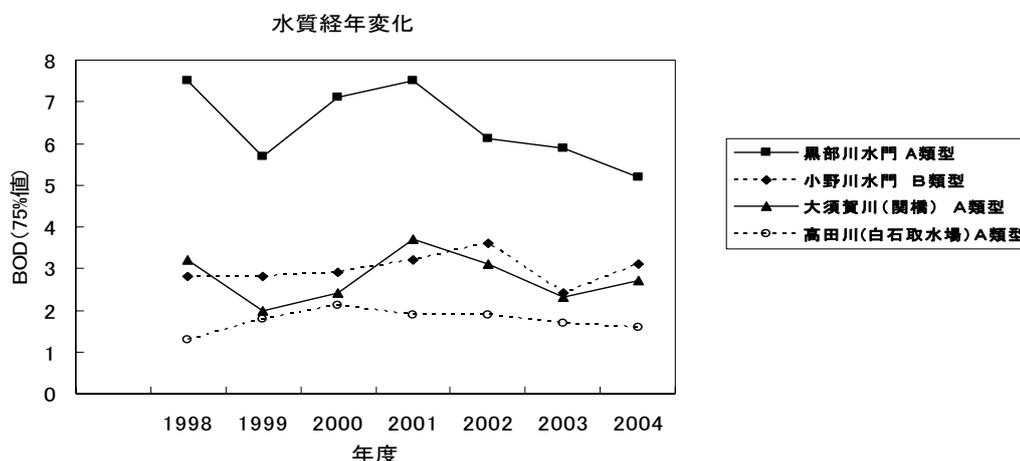
第4節 河川環境に関する現状と課題

(1) 水質

大須賀川、黒部川下流、清水川（香取市）、高田川が水質汚濁に関する環境基準のA類型に、小野川、黒部川上流がB類型に指定されている。

各河川の水質観測点における近年の水質観測結果で、環境基準（BOD）をほぼ満足しているのは高田川である。

他の河川については、BOD値で環境基準を満たしておらず、特に、水道水源となっている黒部川（貯水池）については水質汚濁が著いため、水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンス21及び清流ルネッサンスⅡ）に基づき、貯水池及び流入河川での浄化対策及び、生活排水対策や畜産排水対策などの流域対策を行ってきたところであるが、市街化及び地域の主要産業である畜産業の進展等による汚濁機構の変化の影響もあり、目標水質の達成には至っていない。このような状況から、黒部川については今後も積極的な水質改善を図る必要がある。



(2) 自然環境

圏域を貫流する利根川は、広大なヨシ原を中心に、多様な生物が生息する重要な環境となっている。利根川に合流する圏域内の各河川においても、利根川と連続した環境を形成しており、オオセッカやヒヌマイトトンボ等の利根川下流部の特徴的な生物も確認されている。

現地調査や文献によれば、河川沿いの植生としてはヨシ・ススキなどの一般的なものが多く見られる。圏域内の各河川において、魚介類については主にコイ、ギンブナが多く、ヨシノボリ、テナガエビ、モクズガニなども確認されている。鳥類としてはバンやチュウサギ、カルガモを中心に、オオセッカ、チュウヒ、コジュリンなどの貴重種も確認されている。また、昆虫類ではトンボ類やチョウ類などを中心に、オオモノサシトンボやヒヌマイトトンボなどの希少種が確認されている。この他、小野川ではセキシヨウモ、コウホネ、黒部川の河口ではタコノアシなどの希少な植物も確認されている。大須賀川ではメダカなどが、小野川ではメダカやツチフキ、タモロコなどが、与田浦川ではホトケドジョウ、ヌマチチブなどが、黒部川ではシマドジョウ、スゴモロコ、マシジミなどが、高田川ではホトケドジョウやメダカなどの魚介類が確認されている。